

2022 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	河本 信雄
研究テーマ	幕末佐賀藩のアームストロング砲模造の実態解明
研究概要	一般には幕末佐賀藩は当時の最新鋭の大砲であるアームストロング砲を模造したとされているが、史学的見地からは模造の実否は定まっておらず、また、当時の同砲の製法も明らかになっていない。これに関して、これまでに調査されてきた史料・文献に加えて、同藩に出仕し、同砲の研究・模造に携わった、技術者田中久重と蘭学者石黒直寛に関する史料・文献や海外文献を調査研究して実態を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>2017 年度から本研究に取り組んでいる。2021 年度までに研究成果として、「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐる 田中久重と石黒直寛関係史料および文献よりのアプローチ」(一)・(二)・(三) を発表した。同論は書き続ける予定にしており、(一)・(二) は全体の序章、(三) は第一章第一節にあたる。序章では実態とは異なるアームストロング砲の過大評価について述べた。第一章は研究するにあたっての問題点を述べており、第一節では 19 世紀半ばごろの「鉄」に関係する用語を読み解く困難さを述べた。</p> <p>2022 年度は同論 (四) を発表した。同論 (四) は全体の第一章第二節(一)～(三) 項にあたり、アームストロング砲の定義、同砲の特徴である成層式(砲身がいくつかの層からなる方式)、百科事典における記述の誤りなどについて述べた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>[論文等]</p> <p>単「幕末佐賀藩におけるいわゆるアームストロング砲の製造をめぐる 田中久重と石黒直寛関係史料および文献よりのアプローチ」(四) (論文) 『福岡地方史研究』第 60 号、pp. 65～81、福岡地方史研究会 (2022 年 9 月、査読有)</p> <p>単「幕末久留米藩における田中久重の大砲製造— 在来技術により造り上げられた施条後装砲 — (改訂版)」(論文) 『銃砲史研究』第 395 号、pp. 1～20、日本銃砲史学会 (2022 年 12 月、査読有)</p> <p>単「現存する田中久重によるからくり興行の引札とその時期」(研究ノート) 『佛教大学総合研究所紀要』第 30 号、pp. 11～20、佛教大学総合研究所 (2023 年 3 月、査読有)</p>
3. 今後の課題	<p>1. で述べた論文の第二章は成層について述べる予定にしているが、これに関する調査研究の深耕および今後発表する論文の作成。</p>